

春野の昔話採録開始

静岡文化芸術大生 来春書籍出版へ



静岡文化芸術大(浜松市中区)文化政策学部の伝承文学ゼミ(二本松康宏教授)の学生が18日、天竜区春野町で2019年度の採録調査を始めた。高齢者から地域の昔話や伝説を聞き、書籍にまとめて来春出版する予定。ゼミは14年度から天竜区内で調査活動を展開し、16年度まで水窪町、17年度は龍山町で

実施した。春野町は18年度は12月までに計21日現地へ足を運んで調査する予定。初日は同ゼミの3、4年生6人が二本松教授とともに同町の若身地区と泉平地区の公民館を訪問。若身公民館では60〜80代の地元住民9人から話を聞いた。地域の弁財天を祭るほらに靴や草履を供える風習や、気田川を流れて来た仏像の話、秋葉寺のガラスてんぐの伝説などが語られた。自動車が普及する以前の水運が栄えた時代、いかだ師が船をロープで引いて川をさかのぼった記憶も話さ

れた。初めて調査に参加した3年生の亀本梨央さん(20)は「どう聞けばよかったか」と話したが、興味深い話をした。(天竜支局・松本直樹)

高年齢から昔話や伝説を聞く学生＝浜松市天竜区春野町の若身公民館